

旅に出る前に

世界史は暗記教科の代表のように思われてきました。

みなさんも、世界史は情報が膨大で、少しでも多く頭に詰め込んだ者が勝ち、と思っているのではないのでしょうか。

でも、これからの大学入試は思考力・判断力・表現力を問う方向に向いています。世界史でも「なにがあったか」ではなく、「どうしてそうなったのか」、「どういう関係があるのか」といったことを自分で考えることが問われます。単に暗記した情報を答えるのではなく、それをもとにして考えることが求められるのです。

それでは、世界史の個々の情報は、どうでもいいのかというと、もちろんそうではありません。考える材料となる情報が間違っていたり、不確かなものであるならば、とんでもない方向に向かうでしょう。考えるための材料は、やはり正確なものでなくてはなりません。細かな年号や項目は暗記する必要はないかもしれませんが、重要な事件や歴史用語は、これまで以上にきちんと理解していなければなりません。

そのためにわれわれがみなさんに贈るのが、この世界史用語集[Dio]です。この用語集とともに、覚えるのではなく、しっかり頭を使って考えてください。

受験という旅に出るみなさんに、この[Dio]がお供します。そうすればどんな敵(難問)が現れても大丈夫です。[Dio]はイタリア語で「神」を意味するのですから。



Giulio 植村



河上洋



知念信一



堀江雅明

世界史用語集(Dio)は、高等学校で使われているすべての世界史教科書から、**大学入試必須の用語を抽出**して編集されています。解説文は**河合塾のベテラン講師陣**が執筆し、**大学入試に必要な情報に的を絞った簡潔な説明内容**となっています。

- ・用語名、別称を合わせて、約6,500用語を収録！
- ・用語は3レベルに分けてあり、入試で問われる基礎・応用・発展の用語が一目瞭然！
- ・用語の「年代(世紀)」をアイコンで整理し、分かりやすい！
- ・関連地域の地図を豊富に掲載！国家や都市、地形などとの関連が整理でき、用語の理解を助けます。
- ・解説文中の重要な関連用語は赤字で記載。赤シートを活用すれば効果倍増！

さあ、世界史学習の強い味方、[Dio]を大いに活用して、大学入試合格を勝ち取ろう！

本書の見かた

① 章立て

第4章 南アジア・東南アジア・アメリカの文明

4-1 インドの古代文明



2 地圖



③ イラスト

4 用類

ヒゲナガハナ

5 用語說明

の事柄もささげると、山脈が世界有数の多雨地帯となる一方で、山脈の北に広がるサベツ
高原は乾燥地帯となり、**気候**が異なる。

インダストリアル

おもにパキスタンを流れる川。その流域でインダス文明が繁栄。中流域はパンジャーブ地方、下流域はシンド地方。

インダス文明 ● 紀元前3000年—紀元1500年

インダス川流域、東洋と、西大文明の二つ。都市計画にもとづいて都市を建設。ハッパー・モエンジャロー・ロ・ロータル・ド・ラヴィエールなど多くの都市を建設した。焼き煉瓦・セービで建物や道路を建設。インダス文字やインダスの印章を使う。ロクロで作られた粘土土器が見える。リンゴの骨、青銅器を創出。メソポタミアと交流。この文明を建設した民族は、ドラフダ人という説もあるが、不明。

▲22P-

パンジャーブ地方のインダス文明の都府遺跡。

シンドローム ●●●

インダス川下流の地域名で、シンドは、サンスクリット語で「川・海」を意味する「インダウー」に由来し、インダス川のことで、インダ・シンドゥーなども、この「インダウー」が語源。

⑥ 関連用語

⑦ 時計アイコン

1 章立て

それぞれの時代や地域、出来事などを、**学習がしやすい単位ごと**に、章として内容をまとめています。

各章内では、さらに1-1、1-2のように、小テーマごとに内容を分けて用語をまとめてあります。

2 地図

歴史の理解に地理的知識は不可欠です。**その時代に必要とされる地名のみを記載**しているので、解説に出てきたときにチェックすれば、地理的知識を知らず知らずのうちに身につけることができます。

3 イラスト

歴史的人物を単なる肖像画ではなく、**みなさんの歴史の旅に登場するキャラ**として描きました。ときにはみなさんの旅のジャマをしたり、あるいは話相手になってくれるかもしれません。

4 用語

読みにくい漢字には、「**読みがな**」をつけてあります。

すべての用語には、「レベルを表す★印(**レベル表示**)」をつけてあります。レベルは、入試難易レベルとして★の数で表し、以下のように分類していますので、確認する際の目安としてください。

★	…	標準 「大学入学共通テスト(センター試験)」レベル
★★	…	応用 「私大入試」レベル
★★★	…	発展 「難関私大入試」レベル

5 用語説明

用語の解説は、**大学入試に必要なにして十分なもの**にしました。余計なことは一切書いていません。ただし、文学作品などの解説には、できるだけ「**あらすじ**」などを書きました。少しでも文化史を内容のあるものにするためです。

6 関連用語

用語説明の中の重要用語を**赤字**で記載してあります。付属の**赤シート**を利用しながら学習を進めると、用語の理解がより深まります。

7 時計アイコン

その用語に関係する**世紀**、または**年代**を記載しています。両方書いてあるので、大きくつかむ場合は世紀を、細かく調べるためには年代を使えるようになっています。

目次

旅に出る前に	3
本書の特長	4
本書の見かた	4

第1章 先史時代

1-1 先史時代	8
----------	---

第2章 オリент世界の成立と展開

2-1 オリент世界の成立	14
2-2 オリент世界の統一 とイラン文化圏の成立	19
2-3 オリент文化とイラン 文化	21

第3章 地中海世界の成立と解体

3-1 ギリシア世界	26
3-2 ギリシアの文化	34
3-3 古代ローマ	38
3-4 古代ローマの文化	45
3-5 キリスト教の発展	49

第4章 南アジア・東南アジア・アメリカの文明

4-1 インドの古代文明	53
4-2 東南アジアの諸文明	60
4-3 南北アメリカ文明	66

第5章 東アジア世界の形成

5-1 中国の古典文明	69
5-2 春秋・戦国時代と秦・漢	73
5-3 北方民族の活動と中国 の分裂	84
5-4 魏晉南北朝の文化	88

第6章 東アジア世界の発展

6-1 中国の再統一と東アジ ア文化圏の成立	91
6-2 唐の文化	96
6-3 中国社会の変化	99
6-4 北方民族の進出(遼・ 西夏・金)	103
6-5 宋の文化	105

第7章 内陸ユーラシア世界の変遷と朝鮮・日本

7-1 陸と海のネットワーク	108
7-2 モンゴル民族の発展	116
7-3 元の文化	118
7-4 近代以前の朝鮮	119
7-5 近代以前の日本	122
7-6 近代以前の琉球	128

第8章 イスラーム世界の形成と発展

8-1 イスラーム教の成立と 発展	130
8-2 イスラーム世界の分裂 とイスラーム諸王国	134
8-3 イスラーム文明と社会	141

第9章 中世ヨーロッパ世界の成立

9-1 ゲルマン人の移動とフ ランク王国	145
9-2 ノルマン人の移動と封 建社会の成立	151
9-3 ローマ＝カトリック教 会	155
9-4 ビザンツ(東ローマ)帝 国	158
9-5 スラヴ人と周辺民族の 自立	160

第10章 中世ヨーロッパ世界の衰容

10-1 十字軍と都市の発達	166
10-2 協会権威の衰退	169
10-3 封建制・荘園制の崩壊	170
10-4 イギリス・フランスの 中央集権化と百年戦争	172
10-5 中世後半のヨーロッパ 諸国	175
10-6 中世ヨーロッパ文化	179

第11章 アジア諸地域の反映

11-1 イスラーム諸帝国	183
11-2 インド＝イスラーム文 化	189
11-3 中華帝国	190
11-4 明・清の文化	198

第12章 近代ヨーロッパの成立

12-1 ヨーロッパ世界の拡大	203
12-2 ルネサンス	206
12-3 宗教改革	213
12-4 主権国家体制の成立	217
12-5 絶対王政	218
12-6 スペインの全盛期とイ ギリス・フランス・ロ シア	219

第13章 ヨーロッパ主権国家体制の展開

13-1 ヨーロッパ主権国家体 制の展開	223
13-2 ヨーロッパ諸国の海外 進出	234
13-3 17-18世紀のヨーロッ パ文化	241

第14章 欧米における近代社会の成長

14-1	産業革命	251
14-2	アメリカ独立革命	255
14-3	フランス革命とナポレオン	259

第15章 欧米における近代社会の発展

15-1	ウィーン体制	269
15-2	19世紀のフランス・イギリス	279
15-3	19世紀のイタリア・ドイツ	283
15-4	19世紀のアメリカ大陸	288
15-5	東方問題とクリミア戦争	296
15-6	19世紀のロシアと北欧	296
15-7	国際的諸運動と世界の一体化	297
15-8	19世紀の欧米文化	298

第16章 ヨーロッパの進出とアジア・アフリカ

16-1	東アジアの激動	312
16-2	列強の中国侵略と日本・朝鮮	318
16-3	オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ	329
16-4	南アジア・東南アジアの植民地化	336
16-5	アフリカ分割	339
16-6	太平洋地域の分割	343
16-7	インド・東南アジア・西アジアの民族運動	346

第17章 帝国主義と第一次世界大戦

17-1	帝国主義の成立	349
17-2	帝国主義と国民	350
17-3	三国同盟と三国協商	356
17-4	第一次世界大戦	358

第18章 ロシア革命とヴェルサイユ体制

18-1	ロシア革命・ソヴィエト政権	362
18-2	ヴェルサイユ体制	366
18-3	第一次世界大戦後の欧米諸国	370

第19章 アジア・アフリカ民族主義の進展

19-1	トルコ革命とイスラーム諸国の動向	376
19-2	インド・東南アジアの民族運動	380
19-3	中国の民族運動と日中戦争	383
19-4	日本・朝鮮・モンゴル	389

第20章 世界恐慌・ファシズム諸国の台頭と第二次世界大戦

20-1	世界恐慌期の欧米諸国	392
20-2	第二次世界大戦	401

第21章 戦後世界の形成と変容

21-1	アメリカ合衆国の派遣と冷戦の展開	410
21-2	米ソ両大国の動揺と国際経済の危機	418
21-3	冷戦後の諸問題	423

第22章 第二次世界大戦後の各国史

22-1	アメリカ大陸諸国	432
22-2	西ヨーロッパ諸国	437
22-3	ソ連と東ヨーロッパ諸国	443
22-4	東アジア	445
22-5	南アジア・東南アジア	455
22-6	西アジア	464
22-7	アフリカ	470
22-8	20世紀の文化	476

五十音順索引	482
--------	-----

アルファベット順索引	525
------------	-----